

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372400954
法人名	社会福祉法人 熊本東翔会
事業所名	グループホーム たいめい苑
訪問調査日	平成 20 年 9 月 1 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 9月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	4372400954		
法人名	社会福祉法人 熊本東翔会		
事業所名	グループホーム たいめい苑		
所在地	熊本県玉名市岱明町古閑388番地 (電話) 0968-57-1220		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと		
所在地	熊本市上通り町3番15号4F		
訪問調査日	平成20年9月1日	評価確定日	平成20年9月10日

【情報提供票より】平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14.5 人	常勤 14 人, 非常勤 0.5人, 常勤換算	14.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	光熱費7,500円公益費3,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8 月 1 日現在)

	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	7 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢 平均	86.6 歳	最低	68 歳 最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東原整形外科病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

公園や畑に囲まれた静かな環境の中に、特別養護老人ホームやデイサービスなどと共に建てられた、和風と洋風の部屋を持つ2ユニットのホームである。併設他事業の利用や緊急時等の協力体制が整備されており、各ユニット毎に看護職員も配置し、医療面での整備も図られている。他施設の併設ならではの利点を最大限に活用し、研修体制も整備され職員の質を高めるための環境は十分に備わっている。そのため、職員のモチベーション向上やケア内容の充実にも繋がっている。現在地域住民への啓発や地域貢献にも継続した取り組みが行われており、信頼度も高い施設である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流をさらに深めるための取り組みとして、町づくり委員会に参加し関係構築が図られている。定期的開催されるふれあいサロンでの講習会など、様々な活動も定着しつつある。近隣の人から野菜作りの指導を受けるなど交流が広がってきている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組んだ結果を管理者がまとめ、自ら課題抽出しを検討や改善の取り組みを行っている。また外部評価はホームの特徴を再認識させるものとして受け止めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	行政の担当者・家族代表・地区の民生委員・ホームの関係者などに参加を求め、ホームの近況や行事報告、家族代表からの気づきや意見などを出してもらっている。その中でサービス改善に繋がるような意見交換が行われており、運営へ反映させている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情ボックスの設置をはじめ、面会時には家族が意見や要望が出しやすい雰囲気作りが心がけ、サービスに活かすよう努めている。今後は家族との信頼関係構築のためのコミュニケーションの摂り方など更に工夫されることが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	区役・地域の町づくり委員会での活動・協力によって地域との関わりは確実に広がっている。ホーム自体も散歩時の挨拶や野菜作りの指導を受けるなど、徐々に交流が増えている。今後は入居者を中心とした近隣との関わり方を検討されることも期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念及び高齢者福祉の三原則(自己決定・自己資源の活用・生活の継続性)を基本としたホーム独自の理念やケア目標を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとりの理念に対する理解・認識を常に自覚するように、個人の学習会も行いながら日々のケアの中で理念の具体化・徹底を目指している。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町づくり委員会や区役にも参加している。また定期的なサロンで認知症についての講話や介護予防体操などの啓発にも努めている。		今後ともホーム独自の組みや、地域と入居者との関わりの機会を確保されることが期待されます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で実施し、その中で顕在化した課題を話し合い、改善にむけた取り組みがされている。外部評価はホームの特徴などを再認識することに繋がると考えており、課題や問題点に関して改善を図る計画がある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・家族代表・民生委員・ホーム関係者の参加で、近況報告・行事・事故ヒヤリハット報告等を行っており、意見を参考にしながらサービス向上に活かすよう努めている。		

グループホーム たいめい苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席や、市町村の担当部署に出向いて情報交換を行い連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話でそれぞれの事情に合わせて近況報告をしている。法人機関紙も家族へ送付している。法人の事務所で金銭管理を行い定期的な報告も行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスの設置をはじめ、面会時や介護計画作成の確認時などに意見や要望等聞くようにしている。また、出された意見に対しては早急に話し合いを行い日々のケアや運営に活かす努力をしている。		家族との信頼関係構築のためのコミュニケーションの取り方等について、検討されることが期待されます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者は馴染みの職員による支援が受けられるよう配慮している。現在2つのユニット合同の職員でケアを担当する取組を実験的に施行するなどの新たな試みも行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に教育委員会を設けており、新任・現任の研修会・定期的な勉強会を行っている。また外部の研修会にも積極的な参加を推進しており、受講後の報告会も開催し、職員のスキルアップに努めている。職員のストレスケアにも配慮されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大牟田市の認知症ケア研究会への参加や法人内にある事業所同士の勉強会においても交流を図っている。また海外からの見学があった場合にも積極的な意見交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には職員が自宅訪問し、本人や家族から情報を収集するよう努めている。また体験宿泊や併設事業所の利用を経る場合もあり、徐々に馴染みの関係を構築できるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者のこれまでの生活パターンを大切にし、その継続性を持たせるための支援に努め、その中での関係づくりを目指している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族からの希望や身体状況の把握をもとに、できる限り本人の自己決定に従い柔軟な対応に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員や計画作成担当者が一緒になって、ケースカンファレンスで検討しながら作成している。作成した介護計画は本人や家族にも確認してもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人の状態や状況に変化があればその都度見直しをし、また定期的なケースカンファレンスでの検討も行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設を利用し、デイサービスやリハビリなどの機能を有効活用している。家族の要望に応じて通院支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を聞き希望に沿うような支援を行ない、各ユニットには看護職員も配置し、医療面でも安心・信頼確保に努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしては指針を明確にしつつ、家族や本人、医師等と十分に話し合いを重ねながら進めるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に敬意をもった言葉遣いや対応に努めている。敬語についても研修会を行い徹底を図っている。また個人情報「取り扱い指針」に基づいた管理がされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの体調や希望に合わせ、またペースも尊重しながら過ごしてもらっている。		

グループホーム たいめい苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は本人の自己資源開発と捉え自力行動を促している。食事の下ごしらえや週2回の夕食メニューは献立を相談し、買い物にも入居者と一緒に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や曜日は本人の希望を聞いて支援している。湯船のお湯もその都度入れ替えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	以前からの生活歴や趣味・仕事などを把握し、本人が楽しいと感じられるものを見い出しながら支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や希望に応じた散歩や買い物などの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が施錠することへの弊害を認識しており、昼間は施錠していない。身体拘束に関しては法人内で抑制拘束委員会を設置し、定期的な勉強会や検討会を開催している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内で年に2回は防災・災害訓練を行い、毎年9月9日には消防署・地域住民・他の事業者を招いた交流を兼ねた救急勉強会も開催している。		

グループホーム たいめい苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面に支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日チェック表で把握するようにし、常に健康状態を確認している。特別な人には食事形態も変えた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースには手作りインテリアが配置され、季節の花や入居者が好みそうな装飾も施されている。ゆったりとした雰囲気と家庭的な安らぎが感じられる一方、換気や臭気・採光への配慮もされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に家族にも協力してもらい、本人が使い慣れた馴染みの物を持ってきてもらっている。身体の状態の変化に応じ、レイアウトの変更も行い、個性的で生活しやすい居室作りの支援を行っている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームたいめい苑
(ユニット名)	一番館
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名市岱明町古閑388番地
記入者名 (管理者)	坂上文能
記入日	平成 20 年 8 月 13 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高齢者福祉の三原則に基づいた自己決定・資源開発・生活の継続性を尊重した理念を掲げている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法令の意義の理解と同時に、認知症の方の人権を尊重したケアを基本とし、運営上の方針や目標などを具体化・具現化している。今後とも理念の徹底に努める。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会時や運営推進会議時に随時、又は地域まちづくり委員会に参加し、認知症の理解に努めている。	地域のふれあいサロン等にて認知症についての講習等を行っている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所散歩時の挨拶や会話は積極的に行っている。法人としてのつきあいがどうしても主であり、隣近所の方へもグループホームとしての存在価値を示せればと思う。	近隣の方より畑の耕し方や農産物の植えかた等を教えてもらい家庭菜園を行っている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区役、まちづくり委員会等に参加し交流を深めている。又、法人として様々な地域活動に参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	理念に従い、事業所として、法人として地域貢献に努めている。		地域まちづくり委員会への参加・協力を行っている。又、法人独自に地域福祉推進室を立ち上げ、訪問活動・介護教室の展開などを行っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価・外部評価を行う事により、事業所の特徴を見出すことができ、地域活動のより積極的な推進等の改善に繋がっている。		職員一人ひとりが自己評価を行い、その後話し合いを行いながら事業所の自己評価を完成させている。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議においては、日常生活状況、評価報告、事故・苦情報告を定期的に行っている。又、委員よりの意見を参考にしサービスの向上に努めている。		推進委員よりの意見を参考にサービス改善を行っている。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村の担当部署に手続きや会話に出向いており、情報共有・共通認識に努めている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	成年後見制度、権利擁護事業に関する勉強会を行っている。		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	法人内において月1回以上の委員会開催、日常生活状況確認、又、年2回の虐待に関する勉強会を開催し、予防・防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を用い、相手の理解度を確認しながら契約を結んでいる。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付箱を各所に設置、又、運営推進会議においては外部者に苦情内容を公表し検討会を行っている。</p>	<p>入居者は直接、職員に対して苦情や不満を言われるため、職員間で情報共有を行い、支援に反映している。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や電話連絡など個々の状況にあわせた報告を行っている。金銭などについては定期的に報告を行っている。</p>	<p>法人機関紙を発行。部所報告という内容になっている。事業所として、個々へのお便り等を検討したい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や苦情ボックス、並びにプラン確認時等その都度家族へ意見はないかと投げかけており、意見があれば反映している。</p>	<p>苦情ボックスの位置や家族が苦情や要望をいいやすい環境・方法の確立を行いたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>法人運営会議に現場主任職員の参加を規定し、現場の意見を聞く機会を設けている。</p>	<p>部会議等にて意見の徴収を行っている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況や体調の変化に伴い、会議を設け時間調整や人員体制の調整を図っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者がなじみの職員による支援が受けられるように配慮し、配置を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人において教育委員会を設置。新人・現任研修会の定期実行、月1回以上の勉強会、外部研修への積極的参加推進を行っている。</p>	<p>法人内において教育・人材育成システムの確立を行った。研修は定期化しており多くの実績があると自負している。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人グループ内の同事業職員との交流・勉強会、又、任意団体の認知症ケア研究会等の活動や交流会に参加している。他事業所からの見学もあり、その際、意見交換など行っている。</p>	<p>大牟田市認知症ケア研究会、サービス事業所研修部会等に会員として会運営に参加・協力を行っている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員個々の話を聞くことができる体制を確立しており、職員のストレスケアを行っている。</p>	<p>今後の制度や報酬改定等含め、日本(の政治)が高齢者介護をどのような方向で行っていくかによるが、現場職員のストレスは高い。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務状況・体制の確認作業、勉強会や交流会を定期に開催し、モチベーションサポートに努めている。他事業所からの見学もあり、その際、意見交換など行っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホーム相談員という位置付けを行い、専門職員よりの初期介入を行っている。</p>	<p>相談員(ソーシャルワーカー)を配置し、サービス計画者等とともに相談体制を確立し、アセスメント・マネジメント機能の充実を図っている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホーム相談員という位置付けを行い、専門職員としての初期介入を行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を伺い、行政や介護支援専門員、生活相談員への橋渡しを行っている。		本人・家族以外にも、他事業所や介護支援専門員と連携している。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況に応じて、試験的に宿泊や法人内他事業所の利用等を行い、サービス適正の有無、又、徐々に馴染んで頂く様に努めている。		家族の思い(考え)と本人の思い(考え)が異なる場合の調整が困難を極める場合がある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今までの生活を大切に、その方の生活の継続性の観点から支援している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や個別相談の対応を行っている。家族によっては食事作りなど家事援助にも協力していただくこともある。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族より、それぞれ生活暦のアセスメントを行い、関係性の理解に努めている。ポイントを見極め、支援している。		親族が姪や甥のみ・元々関係性が希薄等の方等の場合は関係性の調整がやはり難しい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解や協力に基づき、本人宅への帰宅、希望された場所への外出等をおこなっている。		家族の理解や協力に基づき、本人宅への帰宅、希望された場所への外出等をおこなっている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格、疾患、地域性や歴史等をふまえ、関係性の支援に努めている。しかし、個々の性格や調子に合わせて、独りの時間も大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ケースに応じて、様子確認や状況把握を行う事に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族より、日常生活についての希望を伺い、その希望に添えるように支援を行っている。		起床、入床、食事、入浴時間等本人の声にあわせ、随時、柔軟に対応している。日々の自己決定に努めている。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを用い、入居前、後と状況に応じて聞き取りを行っている。 本人の話だけでなく、家族からも聞き取りを行っている。入居前の事業所に確認、連携する事もある。		センター方式を一部導入。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活状況を毎日記録し、状況変化の把握に努めている。自立支援の観点より法人内の専門職員と連携・協力し、共に残存能力の見極めを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケースカンファレンスを開催し計画書を作成、本人もしくは家族にサインを頂いている。		家族がケースカンファレンスに参加されない場合も多いので今後の課題である。
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケースカンファレンスを開催し計画書を作成、本人もしくは家族にサインを頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活状況を毎日記録し、状況変化の把握に努め、申し送りノートも活用し、実践やケア計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設事業所の特徴を生かし、併設のデイサービス、ホームヘルプサービス、リハビリ等の活用を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	法人として取り組んでおり事業所単位と言う意味では弱い。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅復帰に向けての取り組み時は、情報提供を含め、協力し行っている。		ケアマネジャーや他事業所と担当者会議を開催し引き継ぎを行った。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループホーム事業所としての協働は事例なく現在はない。		法人としては、地域包括支援センターとの協働ケースが多い。
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族の希望を確認し、希望に沿うように努めている。しかし、疾病によっては家族と協議し、医療機関や受診を決定することもある。		本人及び家族の希望通りとなっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>当法人理事長(Dr)が物忘れ専門医、又、交流のあるDrに相談できる体制が整っている。</p>		<p>近隣の専門医への受診を行っている。</p>
<p>45 看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>事業所看護職員、又は併施設看護職員と連携しながら健康管理を行っている。</p>		<p>常勤専従看護職員を2名配置。併施設には多くの看護職員があり、必要時にはアドバイスや人的手伝いを得ている。</p>
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>退院にむけてのムンテラや医療機関よりの申し送り・入院先においての状況等を確認する等の連携を図っている。</p>		
<p>47 重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りの指針に則り進めている。</p>		<p>指針が作成された後の終末期ケースは現在ない。以前の終末期ケースは家族や主治医、職員間で定期的な話し合いを設け、意思を確認しながら行った。</p>
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>グループホームとして「できること、できないこと」の見極めは元より、医療と福祉の連携は必要不可欠であり、連携のもと、総合的な支援に努めている。</p>		
<p>49 住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>在宅復帰や他の施設に移住される場合、移住先関係者との申し送り、プランの引継ぎを実施している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	敬意ある言葉遣いに努めている。個人情報取扱指針に基づき個人情報を管理している。	敬語の徹底をOJT、OffJTにて行っている。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	意図的な感情表出の原則を学び、コミュニケーション技術を使いながら働きかけている。又、最良の自己決定ができるように援助を行っている。	コミュニケーション技法の勉強会等を行っている。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の言葉や状態に合わせて、それぞれ好きな時間を過ごしていただいている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみ・服装などは個々の好みに応じ、理容・美容は家族と連携して本人の希望に沿った対応を行っている。	理美容店の希望有無を確認し、家族と連携しながら本人の望む店舗へお連れしている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力・生活習慣に応じ、自己資源の開発方法の一つとして食事に関する自力行動を促している。	よく残食される野菜等を職員と一緒に下ごしらえする等、自分が作った意識等を持たれると残さず食される。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の嗜好品については、本人・家族の意向を伺い、経済状況・疾患等を鑑み支援を行っている。	喫煙、飲酒をされる方がいたり、買い物にて好きな物を購入されている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄状況を把握しており、それぞれに応じた援助を行っている。		時間や入居者の行動(サイン)に合わせて、支援している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の要望に応じた時間・曜日に入浴を行っている。毎回、湯船のお湯は入れかえている。		入浴チェック表も用い、適時、声掛け行している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の生活習慣やその日の状況に応じて、安息、安静、入眠の促しなどを行っている。		職員と一緒に休んだり、休息場所を変えたり、状態に応じ、柔軟に対応している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人・家族より、それぞれ生活歴のアセスメントを行い、以前の趣味や生活習慣、仕事など本人にとって役割や楽しみと感じているものを見出し援助している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金については、本人・家族の意向を伺い、経済状況・認知症状等を鑑み支援を行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物等個別の要望や気分に応じた外出に対応している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅外泊や里帰り、食事、旅行、温泉等支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の能力に応じ、可能な限り利用していただくように支援している。		手紙のやり取りを自由にされている。 家族からの電話を取り次いだり、自ら携帯電話を持参・利用される方もいる。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	門扉の開放、デッドスペースを活用した面会空間作りを行っている。面会時間の制限はしていない。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で抑制拘束検討委員会を設置しており、月1回以上の会議・検討会、年1回以上の勉強会を行い、職員への理念浸透と資質の向上に努めている。		委員会にグループホーム職員も参加しており、抑制拘束の有無確認、事例検討会を行っている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は元より、玄関・門扉の施錠は行っていない。 * 夜間7時～朝8時は防犯の為に玄関施錠。		抑制拘束にあたる行為は一切行っていないと自負している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在確認や状態把握を常に職員間で情報共有を行っている。 夜間は2時間おきに安否確認を全員に行っている。		チェック表や記録を用い、定期的、確実に安否確認を行っている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	課題については原因の追究を行い、まずは要因を解決するように取り組んでいる。 本人、家族への説明を行ない、理解に基づき個々の能力に合わせた対応をしている。		活動性と安全性を考慮して行っていきたい。 (アクト オブ バランス)
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人内で事故・苦情対応委員会を設置しており、事故原因の洗い出し・追究・予防・再発防止について検討会を行っている(定期)。		ひやりはっとメモ等により事前に予防・防止策を検討している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを作成し、設置している。 毎年9月9日には、救急の日勉強会を開催している。		勉強会には、職員のみならず消防署・地域住民・他事業者を招き、交流を含め皆で学んでいる。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内で年2回以上、防災・災害訓練を行っている。		消防署の指導の下訓練を行い、アドバイスをもらっている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居当初に抑制拘束廃止の理念やそれに伴うリスクを説明・同意を得るようにしている。又、課題発生時はカンファレンス等で説明し理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行っている。 異変に気付いたときは、看護師に報告、その後看護師より主治医や医療機関と連絡調整を行うようにしている。状態により、法人内の看護師と柔軟に連携している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用や副作用を処方箋等で確認しており、副作用などが懸念される場合は看護師より職員へ注意事項等の説明を行うようにしている。 入居者個々の能力に応じ、服薬支援を行っている。		薬情をスタッフがすぐ確認できる場所に設置している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材に、食物繊維が多い物を使用したり、水分補給に努めている。		排泄チェック表を用い、排便状態を把握し、対応している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の保清に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表を用いて状態を確認している。状態に応じ、声かけだけでなく、介助を行ったり、時間をずらしたり、好きな物や好きな飲み物を摂っていただくなど行っている。		併設の特養に管理栄養士がいるため相談体制がとれている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内に感染対策委員会を設置しており、情報共有・予防策の実施・徹底に取り組んでいる。		感染症それぞれ対してのマニュアルがある。又、手指消毒の洗浄方法の徹底・回数の徹底、次亜塩素酸や酸性水などを用いた掃除等さまざまな取り組みを行っている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	併設特養の管理栄養士より指導・アドバイスをもらい徹底している。		次亜塩素酸を用いて、シンク周りを拭いたり、まな板や包丁、布巾を漂白剤につけ、消毒、除菌を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表札を掲げ、門扉の開放、デッドスペースを活用した面会空間作りを行っている。花壇・ベンチの設置などを行っている。		プランターをもっと設置したりと更なる雰囲気作りを目指したい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りインテリアやテーブルや玄関に季節の花を飾っている。又、建物を建築するにあたっては、建築士と現場職員の会議を幾度となく行い、音や光の課題はもちろん、コンセントの高さ・位置などの細かいところまで話し合いをして決めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッドスペースの活用、家具やインテリアで隠れる事ができるような(人目にふれないような)スペースを確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、本人・家族と協議しながら、使い慣れたものを持ってきていただき、居室のレイアウトを行っている。状態に応じ、家族と連携し、配置換えなど行っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に努め、温度計を設置し、職員の体感温度にあわせるのではなく、ご入居者の体感温度にあわせるようにしている。		定期的に温度・湿度計を確認し、記録と空調調整を行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造の造りとなっており、手すり高さ・配置、その他補助器具や自助具の設置など、併設施設のPT・OT等よりアドバイス・助言をもらいながら設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表札や表示、暖簾などを用いた環境作りを行っている。		色や雰囲気を作り出す事が大事であることを感じた(例:玄関内はそれとわかるように、わざと靴を多く置いておくなど)。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	遊歩道を設置、その周りには畑・花壇・木々等を設置、又、広いスペースのウッドデッキを設置し活動しやすくしている。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

各ユニットに看護職員を1名配置、法人嘱託医の協力もあり、医療面の連携・協力体制がとれている。他、併設施設よりのバックアップ体制を確立しており、他事業の利用や緊急時等の応援体制の整備を図っている。地域との関わりとしては、「地域まちづくり委員会」に参加しており、一緒に地域づくり活動を行っている。職員研修については、数多く内部研修・外部研修の実施・参加、OJT・OffJTの取り組みを行い、職員のスキルアップを図っている。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームたいめい苑
(ユニット名)	二番館
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名市岱明町古閑388番地
記入者名 (管理者)	池田明美
記入日	平成 20 年 8 月 13 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>高齢者福祉の三原則に基づいた自己決定・資源開発・生活の継続性を尊重した理念を掲げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>法令の意義の理解と同時に、認知症の方の人権を尊重したケアを基本とし、運営上の方針や目標などを具体化・具現化している。今後とも理念の徹底に努める。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族会時や運営推進会議時に随時、又は地域まちづくり委員会に参加し、認知症の理解に努めている。</p>	<p>地域のふれあいサロン等にて認知症についての講習等を行っている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所散歩時の挨拶や会話は積極的に行っている。法人としてのつきあいがどうしても主であり、隣近所の方へもグループホームとしての存在価値を示せればと思う。</p>	<p>近隣の方より畑の耕し方や農産物の植えかた等を教えてもらい家庭菜園を行っている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>区役、まちづくり委員会等に参加し交流を深めている。又、法人として様々な地域活動に参加している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>理念に従い、事業所として、法人として地域貢献に努めている。</p>		<p>地域まちづくり委員会への参加・協力を行っている。又、法人独自に地域福祉推進室を立ち上げ、訪問活動・介護教室の展開などを行っている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価・外部評価を行う事により、事業所の特徴を見出すことができ、地域活動のより積極的な推進等の改善に繋がっている。</p>		<p>職員一人ひとりが自己評価を行い、その後話し合いを行いながら事業所の自己評価を完成させている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議においては、日常生活状況、評価報告、事故・苦情報告を定期的に行っている。又、委員よりの意見を参考にしサービスの向上に努めている。</p>		<p>推進委員よりの意見を参考にサービス改善を行っている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村の担当部署に手続きや会話に出向いており、情報共有・共通認識に努めている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度、権利擁護事業に関する勉強会を行っている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人内において月1回以上の委員会開催、日常生活状況確認、又、年2回の虐待に関する勉強会を開催し、予防・防止に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を用い、相手の理解度を確認しながら契約を結んでいる。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付箱を各所に設置、又、運営推進会議においては外部者に苦情内容を公表し検討会を行っている。</p>	<p>入居者は直接、職員に対して苦情や不満を言われるため、職員間で情報共有を行い、支援に反映している。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や電話連絡など個々の状況にあわせた報告を行っている。金銭などについては定期的に報告を行っている。</p>	<p>法人機関紙を発行。部所報告という内容になっている。事業所として、個々へのお便り等を検討したい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や苦情ボックス、並びにプラン確認時等その都度家族へ意見はないかと投げかけており、意見があれば反映している。</p>	<p>苦情ボックスの位置や家族が苦情や要望をいしやすい環境・方法の確立を行いたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>法人運営会議に現場主任職員の参加を規定し、現場の意見を聞く機会を設けている。</p>	<p>部会議等にて意見の徴収を行っているが、個人の意見がもっと徴収しやすい方法を模索したい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況や体調の変化に伴い、会議を設け時間調整や人員体制の調整を図っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者がなじみの職員による支援が受けられるように配慮し、配置を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人において教育委員会を設置。新人・現任研修会の定期実行、月1回以上の勉強会、外部研修への積極的参加推進を行っている。</p>	<p>法人内において教育・人材育成システムの確立を行った。研修は定期化しており多くの実績があると自負している。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人グループ内の同事業職員との交流・勉強会、又、任意団体の認知症ケア研究会等の活動や交流会に参加している。他事業所からの見学もあり、その際、意見交換など行っている。</p>	<p>大牟田市認知症ケア研究会、サービス事業所研修部会等に会員として会運営に参加・協力を行っている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員個々の話を聞くことができる体制を確立しており、職員のストレスケアを行っている。</p>	<p>今後の制度や報酬改定等含め、日本(の政治)が高齢者介護をどのような方向で行っていくかによるが、現場職員のストレスは高い。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務状況・体制の確認作業、勉強会や交流会を定期に開催し、モチベーションサポートに努めている。他事業所からの見学もあり、その際、意見交換など行っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホーム相談員という位置付けを行い、専門職員よりの初期介入を行っている。</p>	<p>相談員(ソーシャルワーカー)を配置し、サービス計画者等とともに相談体制を確立し、アセスメント・マネジメント機能の充実を図っている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホーム相談員という位置付けを行い、専門職員としての初期介入を行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を伺い、行政や介護支援専門員、生活相談員への橋渡しを行っている。		本人・家族以外にも、他事業所や介護支援専門員と連携している。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況に応じて、試験的に宿泊や法人内他事業所の利用等を行い、サービス適正の有無、又、徐々に馴染んで頂く様に努めている。		家族の思い(考え)と本人の思い(考え)が異なる場合の調整が困難を極める場合がある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今までの生活を大切にし、その方の生活の継続性の観点から支援している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や個別相談の対応を行っている。家族によっては食事作りなど家事援助にも協力していただくこともある。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族より、それぞれ生活暦のアセスメントを行い、関係性の理解に努めている。ポイントを見極め、支援している。		親族が姪や甥のみ・元々関係性が希薄等の方等の場合は関係性の調整がやはり難しい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解や協力に基づき、本人宅への帰宅、希望された場所への外出等をおこなっている。		家族の理解や協力に基づき、本人宅への帰宅、希望された場所への外出等をおこなっている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格、疾患、地域性や歴史等をふまえ、関係性の支援に努めている。しかし、個々の性格や調子に合わせ、独りの時間も大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ケースに応じて、様子確認や状況把握を行う事に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族より、日常生活についての希望を伺い、その希望に添えるように支援を行っている。		起床、入床、食事、入浴時間等本人の声にあわせ、随時、柔軟に対応している。日々の自己決定に努めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを用い、入居前、後と状況に応じて聞き取りを行っている。 本人の話だけでなく、家族からも聞き取りを行っている。入居前の事業所に確認、連携する事もある。		センター方式を一部導入。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活状況を毎日記録し、状況変化の把握に努めている。自立支援の観点より法人内の専門職員と連携・協力し、共に残存能力の見極めを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケースカンファレンスを開催し計画書を作成、本人もしくは家族にサインを頂いている。		家族がケースカンファレンスに参加されない場合も多いので今後の課題である。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケースカンファレンスを開催し計画書を作成、本人もしくは家族にサインを頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活状況を毎日記録し、状況変化の把握に努め、申し送りノートも活用し、実践やケア計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設事業所の特徴を生かし、併設のデイサービス、ホームヘルプサービス、リハビリ等の活用を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	法人として取り組んでおり事業所単位と言う意味では弱い。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅復帰に向けての取り組み時は、情報提供を含め、協力し行っている。本人の意向や必要性があれば支援していくも、現在、そのような事例はない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループホーム事業所としての協働は事例なく現在は無い。		法人としては、地域包括支援センターとの協働ケースが多い。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族の希望を確認し、希望に沿うように努めている。しかし、疾病によっては家族と協議し、医療機関や受診を決定することもある。		本人及び家族の希望通りとなっている。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>当法人理事長(Dr)が物忘れ専門医、又、交流のあるDrに相談できる体制が整っている。</p>		<p>近隣の専門医への受診を行っている。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>事業所看護職員、又は併設施設看護職員と連携しながら健康管理を行っている。</p>		<p>常勤専従看護職員を2名配置。併設施設には多くの看護職員がおり、必要時にはアドバイスや人的手伝いを得ている。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>退院にむけてのムンテラや医療機関よりの申し送り・入院先においての状況等を確認する等の連携を図っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りの指針に則り進めている。</p>		<p>指針が作成された後の終末期ケースは現在ない。以前の終末期ケースは家族や主治医、職員間で定期的な話し合いを設け、意思を確認しながら行った。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>グループホームとして「できること、できないこと」の見極めは元より、医療と福祉の連携は必要不可欠であり、連携のもと、総合的な支援に努めている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>在宅復帰や他の施設に移住される場合、移住先関係者との申し送り、プランの引継ぎを実施している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>敬意ある言葉遣いに努めている。個人情報取扱指針に基づき個人情報を管理している。</p>	<p>敬語の徹底をOJT、OffJTにて行っている。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>意図的な感情表出の原則を学び、コミュニケーション技術を使いながら働きかけている。又、最良の自己決定ができるように援助を行っている。</p>	<p>コミュニケーション技法の勉強会等を行っている。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々の言葉や状態に合わせて、それぞれ好きな時間を過ごしていただいている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみ・服装などは個々の好みに応じ、理容・美容は家族と連携して本人の希望に沿った対応を行っている。</p>	<p>理美容店の希望有無を確認し、家族と連携しながら本人の望む店舗へお連れしている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個々の能力・生活習慣に応じ、自己資源の開発方法の一つとして食事に関する自力行動を促している。</p>	<p>よく残食される野菜等を職員と一緒に下ごしらえする等、自分が作った意識等を持たれると残さず食される。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>個人の嗜好品については、本人・家族の意向を伺い、経済状況・疾患等を鑑み支援を行っている。</p>	<p>喫煙、飲酒をされる方がいたり、買い物にて好きな物を購入されている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄状況を把握しており、それぞれに応じた援助を行っている。		時間や入居者の行動(サイン)に合わせて、支援している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の要望に応じた時間・曜日に入浴を行っている。毎回、湯船のお湯は入れかえている。		入浴チェック表も用い、適時、声掛け行している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の生活習慣やその日の状況に応じて、安息、安静、入眠の促しなどを行っている。		職員と一緒に休んだり、休息場所を変えたり、状態に応じ、柔軟に対応している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人・家族より、それぞれ生活歴のアセスメントを行い、以前の趣味や生活習慣、仕事など本人にとって役割や楽しみと感じているものを見出し援助している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金については、本人・家族の意向を伺い、経済状況・認知症状等を鑑み支援を行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物等個別の要望や気分に応じた外出に対応している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅外泊や里帰り、食事、旅行、温泉等支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の能力に応じ、可能な限り利用していただくように支援している。		手紙のやり取りを自由にされている。 家族からの電話を取り次いだり、自ら携帯電話を持参・利用される方もいる。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	門扉の開放、デッドスペースを活用した面会空間作りを行っている。面会時間の制限はしていない。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で抑制拘束検討委員会を設置しており、月1回以上の会議・検討会、年1回以上の勉強会を行い、職員への理念浸透と資質の向上に努めている。		委員会にグループホーム職員も参加しており、抑制拘束の有無確認、事例検討会を行っている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は元より、玄関・門扉の施錠は行っていない。 * 夜間7時～朝8時は防犯の為に玄関施錠。		抑制拘束にあたる行為は一切行っていないと自負している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在確認や状態把握を常に職員間で情報共有を行っている。 夜間は2時間おきに安否確認を全員に行っている。		チェック表や記録を用い、定期的、確実に安否確認を行っている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	課題については原因の追究を行い、まずは要因を解決するように取り組んでいる。 本人、家族への説明を行ない、理解に基づき個々の能力に合わせた対応をしている。		活動性と安全性を考慮して行っていきたい。 (アクト オブ バランス)
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人内で事故・苦情対応委員会を設置しており、事故原因の洗い出し・追究・予防・再発防止について検討会を行っている(定期)。		ひやりはっとメモ等により事前に予防・防止策を検討している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを作成し、設置している。 毎年9月9日には、救急の日勉強会を開催している。		勉強会には、職員のみならず消防署・地域住民・他事業者を招き、交流を含め皆で学んでいる。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内で年2回以上、防災・災害訓練を行っている。		消防署の指導の下訓練を行い、アドバイスをもらっている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居当初に抑制拘束廃止の理念やそれに伴うリスクを説明・同意を得るようにしている。又、課題発生時はカンファレンス等で説明し理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行っている。 異変に気付いたときは、看護師に報告、その後看護師より主治医や医療機関と連絡調整を行うようにしている。状態により、法人内の看護師と柔軟に連携している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用や副作用を処方箋等で確認しており、副作用などが懸念される場合は看護師より職員へ注意事項等の説明を行うようにしている。 入居者個々の能力に応じ、服薬支援を行っている。		薬情をスタッフがすぐ確認できる場所に設置している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材に、食物繊維が多い物を使用したり、水分補給に努めている。		排泄チェック表を用い、排便状態を把握し、対応している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の保清に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表を用いて状態を確認している。状態に応じ、声かけだけでなく、介助を行ったり、時間をずらしたり、好きな物や好きな飲み物を摂っていただくなど行っている。		併設の特養に管理栄養士がいるため相談体制がとれている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内に感染対策委員会を設置しており、情報共有・予防策の実施・徹底に取り組んでいる。		感染症それぞれ対してのマニュアルがある。又、手指消毒の洗浄方法の徹底・回数の徹底、次亜塩素酸や酸性水などを用いた掃除等さまざまな取り組みを行っている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	併設特養の管理栄養士より指導・アドバイスをもらい徹底している。		次亜塩素酸を用いて、シンク周りを拭いたり、まな板や包丁、布巾を漂白剤につけ、消毒、除菌を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表札を掲げ、門扉の開放、デッドスペースを活用した面会空間作りを行っている。花壇・ベンチの設置などを行っている。		プランターをもっと設置したりと更なる雰囲気作りを目指したい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りインテリアやテーブルや玄関に季節の花を飾っている。又、建物を建築するにあたっては、建築士と現場職員の会議を幾度となく行い、音や光の課題はもちろん、コンセントの高さ・位置などの細かいところまで話し合いをして決めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッドスペースの活用、家具やインテリアで隠れる事ができるような(人目にふれないような)スペースを確保している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、本人・家族と協議しながら、使い慣れたものを持ってきていただき、居室のレイアウトを行っている。状態に応じ、家族と連携し、配置換えなど行っている。		家族との調整に課題が残る。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に努め、温度計を設置し、職員の体感温度にあわせるのではなく、ご入居者の体感温度にあわせるようにしている。		定期的に温度・湿度計を確認し、記録と空調調整を行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造の造りとなっており、手すり高さ・配置、その他補助器具や自助具の設置など、併設施設のPT・OT等よりアドバイス・助言をもらいながら設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表札や表示、暖簾などを用いた環境作りを行っている。		色や雰囲気を作り出す事が大事であることを感じた(例:玄関内はそれとわかるように、わざと靴を多く置いておくなど)。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	遊歩道を設置、その周りには畑・花壇・木々等を設置、又、広いスペースのウッドデッキを設置し活動しやすくしている。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

各ユニットに看護職員を1名配置、法人嘱託医の協力もあり、医療面の連携・協力体制がとれている。他、併設施設よりのバックアップ体制を確立しており、他事業の利用や緊急時等の応援体制の整備を図っている。地域との関わりとしては、「地域まちづくり委員会」に参加しており、一緒に地域づくり活動を行っている。職員研修については、数多く内部研修・外部研修の実施・参加、OJT・OffJTの取り組みを行い、職員のスキルアップを図っている。